

てらこや ろんごじゆく 寺子屋・こども論語塾

しゅさい にった おきむ
主宰・新田 修

2010(平成 22)年 12 月 18 日(土)

- 来月からは、坐禅を終えた後に論語の素読に入ります。
- 礼儀・言葉遣いがきちんとできる人間になることを心がけ、皆が楽しみながらできる雰囲気ふんいきの論語塾をめざしましょう。(トイレは自由)
- 最初と最後の号令は、塾生じゆくせいにお願いします。
- 背筋をきちんと伸ばし、姿勢しせいを正して大きな声で素読をしましょう。
- 1年に一回、反省・意見・要望などを出し合う懇談会(食事会)を行いたいと思っています。

1. 学習の目的について

孔子先生の教えは、私達人間が如何に心豊かで、遅しく、清く、正しく、思いやりの心をもって生きていくかということことを基本としたものです。

しかし、如何に素晴らしい教えでも、その言葉が身に染み込まなければ効用(ききめ)がありません。

こんなむずかしい言葉を幼稚園児や小学生に読ませて無理ではないかと思われるかも知れませんが、まずは素晴らしい名言に溢れる論語の世界を、若々しい脳のうに覚えさせることが大切なのです。素読は脳の活性化と珠玉(すぐれている)の言葉の獲得につながります。脳が記憶してしまうと意味を理解できる年頃には、孔子先生の教えがしみじみと心の奥深くに響き、人生を豊かに楽しくしてくれます。

勿論、塾生の皆さんにも意味のわかる部分は、十分に「心の教育」に活かします。

また、みんなで「論語」を素読することは、背筋をきちんと伸ばした規律ある生活をつくり、学習しようという姿勢づくりにもつながります。そこから豊かなよき日本人が育ってくるのです。

2. 学習の仕方について

みんなで大きな声で素読や朗唱をしてみましょう。

わずかな時間でも毎日毎日、繰り返し繰り返し素読をすれば、暗唱できます。大きな声でハッキリと、ハキハキ唱える(声を出して読む)ことができたなら、それが朗唱です。自分一人でも自信をもって朗唱ができるように、みんなで励まし合って頑張り、そして「新田の論語雀」になってほしいと心から願っています。

一注一

素読・・・意味などわからなくても声を出して読むこと

暗唱・・・覚えてしまって唱えること

朗唱・・・声高く人に聞かせるように唱えること

味読・・・文章の内容をよく味わいながら読むこと

3. 孔子と「論語」について

《塾生への説明》

孔子先生は、2500年ぐらい前、中国にお生まれになり、理想の政治を実現するために、自分の考え方や生き方などについて中国各地を弟子と一緒に説いて回りました。また、弟子の教育にも大変力を尽された立派な政治家であり学者です。

なお、孔子の「子」は尊称(敬意を表す呼び名)で、先生という意味です。つまり、孔先生ということになります。但し、本塾では孔先生ではなく、孔子先生とします。人には姓があり、名があります。「孔」は姓で名は「丘」。従って、孔子先生の本名は孔丘といえます。

《保護者向け説明》

孔子は、今からおよそ2500年前(日本では、縄文時代の終わり頃にあたる)に中国で生まれた大変立派な教育者・思想家・政治家です。

理想的な政治を追い求めながら、自分の考えを広めるために中国各地を弟子と一緒に説いて回りました。また、弟子の教育にも熱心に指導されました。弟子は三千人近くいたとも言われていますが、すぐれた弟子は七十人程で、その中の特に優秀な弟子は十人でした。

孔子は74歳で生涯を終えました。

《塾生への説明》

論語とは、孔子先生が学問の大切さと心のうつくしさなどを教えられた内容が書かれたものです。なお、皆さんが使用するこの「仮名論語」は20篇509章から構成されていて、孔子先生の人柄や考えを知る上で、最も重要な書物です。

《保護者向け説明》

「論語」とは、孔子が生前に語った言葉や日常の行い、また、弟子達の質問に答えた話等をその当時の弟子達が書き留めておいたものを、孔子の死後、約300年近くかけて何代もの弟子達によって現在の形にまとめられた孔子の人柄や思想を知る上で最も重要な書物です。なお、当時は紙はないので、竹をき切って薄片(うすいかげら)を作り、竹簡(細長い竹の札)に文字を書きました。

論語は全体でおよそ500の章があります。およそというのは、どこで区切るか、どこを結びつけるかで異なるからです。篇は学而第一篇から堯曰第二十篇まであり、篇名は篇の内容を表すのではなく、単に篇の最初の二語をとったものです。

一注一

子曰く・・・シ・イワク、 子曰わく・・・シ・ノタマワク どちらで読んでもかまいませんが、イワクは「言う」、ノタマワクは「おっしゃる」の意味になりますので、本塾では、シ・ノタマワクで読むことにします。テキストもそのようになっています。

一例一

子曰わく、学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋遠方より来る有り、亦た樂しからずや。人知らずして慍みず、亦た君子ならずや。

4. 論語の中で最も多く用いられている大切な言葉について

※ 「仁」・・・他人を思いやる優しい心。愛を与える心。(105回)

※ 「君子」・・・人格が完成している立派な人、人格者。(101回)

反対は、「小人」で人格が完成していない未熟な人。